

平成元年度新製品 一挙に発表!!

三笠ニューズ

発行所

東京都千代田区猿樂町1-4-3
三笠産業株式会社
電話 東京(292)1411 大代表
テレックス 222~4607
郵便番号 101
PR旬報 年4回発行

本年五月に行なわれた東部地区および西部地区の

三笠代理店会に於いて、平成元年度の三笠産業の

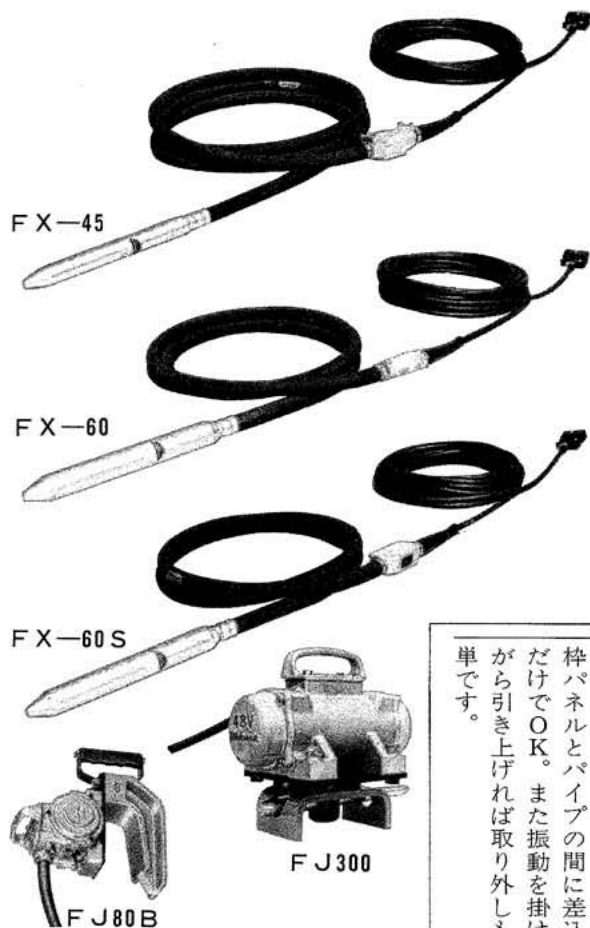
新製品が発表された。主なものは次の通りである。

FX-45/60/60S
高周波パイブレーター
(インヘッダー)

使い易くて仕上りのよいパイ
ブレーターとして好評の三笠高
周波パイブレーター(インヘッ
ダー)に新シリーズFXが登場
しました。FXシリーズはモー
ターの出力を大幅にアップした
のでコンクリート中でも振動数
のドロップが少なく、効果的な
コンクリート打設が行なえます。
また、振動筒先端部の振幅を大
きく、ホース部の振幅を小さく

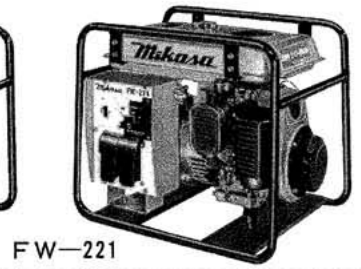
FZ-130
ダム用インヘッダー

ダム工事現場などの大量のコ
ンクリート打設現場用に開発さ
れたバックホーなどに取付けて
使用する省力型のインヘッダー
です。48V電源なので漏電事故
に対しても安全です。



FJ-80B
高周波小型自振モーター
「トント」
くさびフックタイプ

内部用パイブレーターでは十
分な締固めのしにくい壁や柱、
梁などを外部からの振動で効率
よく締固める高周波小型自振モ
ーター「トント」にくさびフ
ックタイプが登場し、さらに使
い易くなりました。取付けは型
枠パネルとパイプの間に差込む
だけでOK。また振動を掛けな
がら引き上げれば取り外しも簡
単です。



FW-214

FW-221



FW-233

FJ-300
高周波自振モーター

「トント」の兄貴分ともい
える高周波自振モーターです。
移動に便利なハンドルがモー
ターの上部に配置してあります。
また、中間スイッチが装備して
あるので効率よく作業ができま
す。

FW-214/221/233
高周波/単相交差発電機(二役)

高周波ゼネレーターと単相交

きのう社長室へ思いがけな
い訪問者があった。本紙編集
のヘルプをお願いしている画
家の永井郁さんがヨーロッパ
の旅を三週間ばかりで打ち切
って帰国したのだった。酷暑
の欧州滞在を続行するか梅雨
の日本へ帰るか、ずいぶんと
迷ったそうだが結局は画筆を
取めて撤退した。しかし雨し
ぶきの東京へ着いたとたん
もうヨーロッパの青空が恋し
い。ボクには心の安住の土地
がないのかも知れないと、永
井画伯は陽焼けた顔を苦笑
させていた。



深刻に迷うハムレットとは
違った贅沢な迷いではあるが
「人間というものは努めている
間は迷うものだ」という有名
なフアウストの天上の序曲で
ある。

が、今はきつぱりとそれを厳
重に封印し凍結してしまっ
た。企業の責任者に迷いは許され
ないからだ。
あの手この手でメフィスト
は人間に誘いをかける。とも
すると甘美な迷いに身をまか
せたくなるが、ここはグッと
こらえる。疲労を回復するに
は悪いが必要だ。例えばワグ
ナーの曲を聞いて歓喜と酩酊
が味わえる時には心身ともに
充実している証し。これを私
は折にふれてバロメーターに
する。新年度、充実の日々を
歩み続けよう。

MT-50V
タンピングランマー

流ゼネレーターの二つの機能を
併せ持つ「二役」が三種シリ
ーズ化されました。各機種とも
AVRの採用により安定した電
圧が得られます。現場に合った
機種をお選び下さい。

好評のオイルバス式ランマー
MT-50が打撃力、ジャンプ性
能とも大幅にアップしてMT-
50Vとして登場しました。燃料
タンクを角型の大タンクにし
たので長時間の作業が便利にな
りました。

MVC-65
プレートコンパクター

アスファルト補修に最適なプ
レートコンパクターです。車輪

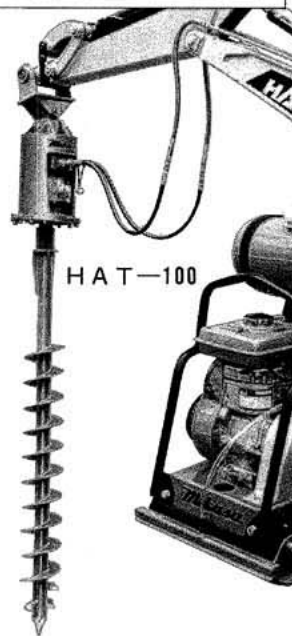
付なので作業現場の移動が楽に
できます。また、舗装作業に欠
かせない散水装置が付いていま
す。

MCH-M12
電動ハンドカッター

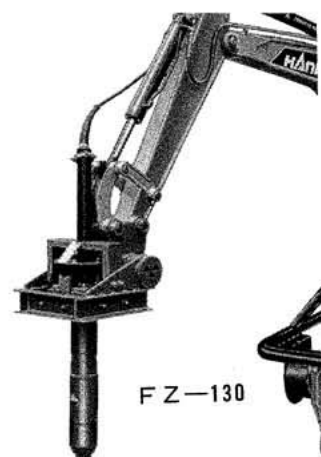
単相一〇〇V電源で手軽に使
えるハンドカッターです。電動
式なのでエンジン音による騒音
の心配がありません。電動ハン
ドカッター専用開発されたブ
レードを使用しているので切れ
味は抜群です。

HAT-100
アースオーガー

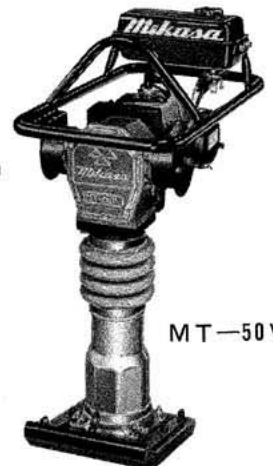
ミニバックホー取付用として
開発された油圧アースオーガー
です。油圧取出しはバケットシ
リンダ配管にワンタッチカプラ
ーで接続するだけで簡単にでき
ます。



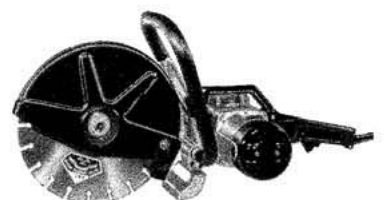
HAT-100



FZ-130



MT-50V



MCH-M12

MVC-65

東部地区三笠代理店会開催

好評だった説明と実演



五月十一日、十二日、「第三十一回東部地区三笠代理店会」が箱根プリンスホテルに於いて盛大に挙行された。

当日は東部地区代理店五十四社と輸出商社十二社、報道関係五社と、例年の如く多数の出席者を数え、五月雨の生憎の空模様ではあったが盛況であった。

三笠産業(株)は、この代理店会に於いて新年度の営業方針と、新製品の発表を行う事を恒例としており、三笠の研究開発スタッフを始め、三笠産業が一丸となって、年間の成果を広く代理店の皆様に披露する場にもなっている。

今年、新製品発表会場を箱根プリンスホテル別館芙蓉亭、代理店会を箱根プリンスホテル国際会議場と、場所を移し行われた。新製品発表会場では、参考出品ではあったが、インパクトローラーMRV-3030Dに無線縦置き装置を取り付けて遠隔操作での実演。今年から三笠の商品戦列に加わった、アメリカホワイトマン社製のパワーローラーの商品群の中からツイード型の試運転。掘削機の油圧回路を動力源にしたバックホー取付け型のアースオーガー等、出

西部地区三笠代理店会開催

新製品に熱い視線集中



平成元年度の「西部地区三笠代理店会」が、五月十六日、十七日の両日、発展著しい神戸市中央区の「新神戸オリエンタルホテル」に於いて代理店六十九社並びに御来賓の銀行、報道関係者多数の御参加を得、盛大に開催された。

十六日午後一時に「新神戸オリエンタルホテル」にご集合して頂き、須磨区の野外特設展示場にて、恒例になった新製品の実演説明会が、技術部の各担当者より行なわれた。

今回は、手許の振動を抑え、モーターの出力を大幅にアップしたFX-45、60、60S型高周波バイブレーター、堰堤、ダムなど大量コンクリート打設に適した省力型のFZ-130高周波バイブレーター、取付け取外しが簡単なFJ-80B高周波小型自振モーター、シリールM12型電動ハンドカッター、

品製品が研究所員により次々と実演され、そのダイナミックな動きと商品説明は、ご列席各社の方々の三笠産業に寄せる期待度を益々高めている様だ。

席を移した代理店会議では、京谷社長より改めて新製品への思い入れが熱く語られた。中で生産台数二千台に近づいたインパクトローラーの国内販売強化については現場でのデモンストレーションを積極的に行う事、他社のこの機種に新たに参入する動きを見、その及ぼす相乗効果も期待される事が相俟

始まり、終始和やかな歓談が続き一日が盛況裡に終了した。

翌日は、番外として代理店会ご列席各位の一層の親睦を深める為、ゴルフコンペと箱根の観光が計画され、観光コースはのんびりと新緑の箱根路巡りを楽しみ、ゴルフコースは大箱根カントリークラブにて、腕自慢の方々が参加して、ゴルフコンペが行われた。

ゴルフコンペの成績は次の通り。

優勝 三谷鋼業(株)若林社長
ベスグロ賞 中道機械産業(株)古賀部長

第二課 青木記

お互いに強いられるだろう。我々も新しいノウハウ、技術をより一層メーカーにフィードバックし、いかに市場に対応できる商品に育てていくかが大きな課題だ、製・販が切磋琢磨していくことが必要不可欠であり、より一層の充実を計り業務拡大に邁進していこう」と挨拶した。続いて三笠産業(株)京谷社長より「三笠製品は、いずれも長い歴史の積み重ねの中から生まれたもので、国内外から高い評価を集めている。今年も世界で最大の建設機械展が西ドイツのミュンヘンで開かれ、単独で出品したが、多くの人々から賞賛を得た。今後も製造・販売の両者が一丸となって、ユーザーニーズに合った技術開発を積極的に進め、皆様の期待に応えたい。また、今年度は人手、熟練工不足の解消の目玉商品となる、世界のベストセラー、ホワイトマン社のパワーローラーなど同社製品の日本及び東南アジアの総代理店になりました」と語った。

国際建設見本市〈バーマ展〉二度目の参加



内を見物出来る程の暑さとなったが、四日目の午後より天候も徐々になお、その後は連日の雨と底冷えのする寒さに後半は会場入りした私も前日までの好天の話が信じられない程の寒さに驚くとともに、あらためてこの地域の生活環境の厳しさを認識させられた。

三笠のブースは、デモンストレーションの出来ない屋内会場であるが、回転テーブルや、水の流れを利用し、動きを強調した展示は、客の流れを止めるのに非常に効果的であった。特に目玉商品として展示した油圧前駆コンパクターにおいては、代理店の社長から、展示会が終ったところまで送って欲しいとおぼめの言葉を頂いたり、インパクトローラーにおいては大手ローラーメーカーからOEMで供給してもらえないか、と引合いを頂く程好評であった。

ここ西ドイツを本拠とする競合メーカーにおいて、特に目立った動きは、搭乗型振動ローラーの軽量化で、昨年までは一、五トンクラスのもののが最軽量であったが、今年は一、二トンのものが多数出品されており、労働者の高齢化と慢性的労働力不足からハンドガイドローラーの需要が低減し、徐々に搭乗型ローラーに移り変わりつつあるという世界的潮流にマッチさせるかのように大々的にPRされていた。

今回のバーマ展を利用して弊社としても、ヨーロッパの各代理店の方々と、そして今回特別に参加頂いたカナダP社社長、副社長のお二人にお集まり頂き、ミュンヘン市内の中華レストランでパーティーを行った。永年の取引関係にあるP社副社長、スウェーデンE社社長から、今日の成功は三笠製品の取扱によるものである旨のスピーチを頂き、またベルギーC社社長からはいつもながら感心させられているそのバイタリティーと若さを保つ秘訣は、ドイツのW社の製品ではなく三笠の製品を販売しているからだと言ふ心暖まるお話を頂戴し、誠に心強い限りであった。三年前のバーマ展以来の再会を祝し、また、あらたに代理店の仲間に加わった人々も歓迎に加わり七時から始まったパーティーも、いつの間にか十一時の鐘を打っていた。

連日の来客の応対や、その合間を利用した展示会場の見学は、短い間ではあったが、私にとり初めてバーマ展に直接肌で触れる機会を得ることが出来、ヨーロッパに於ける先端技術及び、今後の方向づけを認識するよい機会であった。

そして、今回の展示会に出品するにあたり、関係商社ならびに現地駐在員の方々に、なみなみならぬ御尽力を頂き有難うございました。温かいご支援に對し深く感謝申し上げます。

輸出二課 田島記

発電機FW-214、221、233(二役)、輾圧機部門ではMT-50をさらに性能アップさせたMT-50V、現場での移動の楽な車輪付プレートコンパクターMVC-65、リモコン装置で遠隔操作の可能なMRV-3030D型インパクトローラー、その他では単相100V電源で手軽に使えるMCH-12型電動ハンドカッター、

バックホーに取付けて使用するHAT-100型アースオーガー。また、本年より三笠が日本での総代理店となったホワイトマン社製のパワーローラー等、代理店の皆様も新製品に熱い視線を注がれていました。

この後、午後二時五十分からホテル十階「真珠の間」にて第二部の代理店会議が中部営業所の村川所長の司会進行により行なわれた。

冒頭、三笠建設機械(株)小野社長が挨拶に立ち「内需拡大による活発な公共工事をはじめ、民間の設備投資や堅調な個人消費など、「いざなぎ景気」以来の好況に支えられ、昨年度は過去最高の記録した。総合力として高の座をメーカー共々堅持しているのは皆様の温かいご支援とご指導の賜で、また今後は、これまで以上に製造業、販売業、レンタル業にわたり厳しい商戦が

第二十二回国際建設見本市(建設機械と建設材料製造機械の国際貿易フェア)が、西ドイツのミュンヘンで、四月十日から十六日の一週間に亘って開催された。イギリスのバーミンガム展、フランスのエクスボマツト展と並んでヨーロッパの三大建設展の一つとして、三年毎に開かれており、弊社も前回のバーマ86に単独参加して以来、二度目である。

屋外二十九万一千㎡、屋内九万七千㎡、総面積三十八万八千㎡の展示会場に、世界三十か国から二百九十四社の参加があり(うち日本から九社参加)、期間中の入場者総数は前回の十八万人を大きく上回り、世界百三か国から二十五万人もの人が集まり、まさしく世界的規模の展示会であった。

弊社からは技術者二名を含め前半後半に分かれて六名が展示会詰員として参加した。

初日から三日間は好天に恵まれたが、日中はTシャツ一枚で会場

内を見物出来る程の暑さとなったが、四日目の午後より天候も徐々になお、その後は連日の雨と底冷えのする寒さに後半は会場入りした私も前日までの好天の話が信じられない程の寒さに驚くとともに、あらためてこの地域の生活環境の厳しさを認識させられた。

三笠のブースは、デモンストレーションの出来ない屋内会場であるが、回転テーブルや、水の流れを利用し、動きを強調した展示は、客の流れを止めるのに非常に効果的であった。特に目玉商品として展示した油圧前駆コンパクターにおいては、代理店の社長から、展示会が終ったところまで送って欲しいとおぼめの言葉を頂いたり、インパクトローラーにおいては大手ローラーメーカーからOEMで供給してもらえないか、と引合いを頂く程好評であった。

ここ西ドイツを本拠とする競合メーカーにおいて、特に目立った動きは、搭乗型振動ローラーの軽量化で、昨年までは一、五トンクラスのもののが最軽量であったが、今年は一、二トンのものが多数出品されており、労働者の高齢化と慢性的労働力不足からハンドガイドローラーの需要が低減し、徐々に搭乗型ローラーに移り変わりつつあるという世界的潮流にマッチさせるかのように大々的にPRされていた。

今回のバーマ展を利用して弊社としても、ヨーロッパの各代理店の方々と、そして今回特別に参加頂いたカナダP社社長、副社長のお二人にお集まり頂き、ミュンヘン市内の中華レストランでパーティーを行った。永年の取引関係にあるP社副社長、スウェーデンE社社長から、今日の成功は三笠製品の取扱によるものである旨のスピーチを頂き、またベルギーC社社長からはいつもながら感心させられているそのバイタリティーと若さを保つ秘訣は、ドイツのW社の製品ではなく三笠の製品を販売しているからだと言ふ心暖まるお話を頂戴し、誠に心強い限りであった。三年前のバーマ展以来の再会を祝し、また、あらたに代理店の仲間に加わった人々も歓迎に加わり七時から始まったパーティーも、いつの間にか十一時の鐘を打っていた。

連日の来客の応対や、その合間を利用した展示会場の見学は、短い間ではあったが、私にとり初めてバーマ展に直接肌で触れる機会を得ることが出来、ヨーロッパに於ける先端技術及び、今後の方向づけを認識するよい機会であった。

そして、今回の展示会に出品するにあたり、関係商社ならびに現地駐在員の方々に、なみなみならぬ御尽力を頂き有難うございました。温かいご支援に對し深く感謝申し上げます。

輸出二課 田島記

株式会社 テッケン

長岡市高見町11-1



お客様を訪ねて...

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」という風景は今も昔も変わるものではない。せんが、今はただの雪国ではなく、この清水トンネルの北側一帯は、一大リゾート地として展開しています。あまりに急激な変貌に、地元ではさすがにとまどいの色を隠せない様子も見られますが、それというのも、新

長岡市は、地図で見ると東京から二百七十kmの距離があり、ムーズに、そして短時間で太平洋側と往来することができるようになりました。長岡の歴史をさかのぼると、



小師社長

今から四千五百年も昔になります。信濃川の両岸に広がる丘陵地帯に、市内七十ヶ所に及ぶ縄文遺跡があり、出土品の中で最も有名なものは、馬高遺跡から出土した火焔土器で、世界に誇りうる傑作とされています。江戸時代には城下町として栄え、明治十一年には油田が発見され、石油の町として大いに活況を呈し、これが現在の長岡の工業の基盤となっております。その後太平洋戦争で、連合司令長官、山本五十六元帥の出身地長岡は空襲を受け、市内八十五%を焼失しましたが、戦後は商工業都市として復興し、今では関東圏と北陸圏の中継点として、又雪国にも拘らず昭和五十

トに対し万全なる建設機械、資材の供給体制を敷き、また、ハード、ソフトの両面からそのニーズに対応すべく「アクティブ・パフォーマンス（積極的行動）」を旗印として、日々その実践を重ね、二年後の平成三年には創業三十周年を迎えようとしております。

現在、長岡市に本社、県内は、新潟支店、上越支店、佐渡出張所、魚沼出張所、サービス部（長岡市内）、県外は東京支店をはじめ、仙台支店、会津出張所、高崎出張所を開設され、広く東日本にその営業範囲を広げ、各々、営業マン、スタッフ共々充実した陣容を整えておられます。更にわが三笠製品がレンタル機として活躍する場を与えて

頂いております。富士レンタル（株）さんが関連会社として昭和五十七年四月に設立され、今や他の諸橋グループ各社さんと合わせ、オール諸橋さんで年商百五十億円を達成されています。諸橋工機（株）さんのある長岡市は、新潟県のほぼ中央に位置し、上越新幹線、関越・北陸自動車道等、高速交通の要衝であり、また、国家プロジェクトである「長岡テクノポリス」の建設が着々と進行し、ニュータウンの建設と相俟って、産・学・住の調和のとれた地方中核都市として躍進しております。

そのテクノポリス構想の一環として「新産業センター」が有り、流通、物流の拠点として機能しています。この新産業センター内に、諸橋工機（株）さんは、敷地約千坪に鉄筋三階建てのビルと商品倉庫棟を備え

中心とし、幅広い商品群を手掛けていくという意図も含まれているそうです。テッケンさんは、古くから三笠の代理店として御活躍頂き、昭和三十七年設立以来、三笠製品の拡販に御協力頂いております。現在は市内高見町に約一万平方メートルという広大な敷地に、鉄筋コンクリート造り三階建ての本社ビル及び倉庫を擁し、奥にはレンタル部の事務所を備え、数多くの三笠製品を始めとして、テッケンパネルハウス、重機類、ダンプカー等所狭しと並べられています。

当初より工機とお付き合いになった社名の如く、機械関係の販売に重点を置き、今もってその流れは変わらず、特に汎用品に関しては得意とする分野であります。三笠製品はその最たるもので、豊富な在庫量を常に確保しながら

諸橋工機株式会社

長岡市新産2-12-4



諸橋社長

新潟県は上・中・下越と三地方に大別され、各々独自の経済圏を形成しておりますが、近年県内各地域は言うに及ばず、高速交通体系の整備、充実により、関東圏・関西圏との時間的距離も大幅に短縮され、情報、流通、物流等緊密化、あるいは高度化されております。

その中であって諸橋工機（株）さんは、その発展の基盤を支える大型、小型あらゆるプロジェクト

「新潟」という文字が歴史上の文書に見られる最初の年は、永祿十一年上杉謙信が部下にあ

り書の表紙にも印刷されている「誠実」という言葉を社員の方々に一人一人が大事になさっている会社であります。真剣な中にも明るく爽やかな雰囲気にも包まれ、諸橋工機（株）さんの今後益々のご発展と社員の皆様のご健康を心から祈念致します。

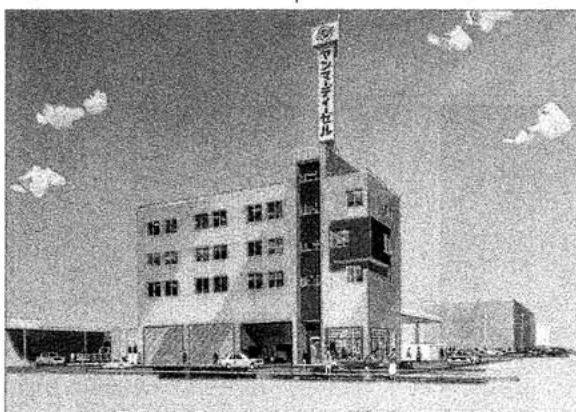
新潟課 平田記

言っても決しておかげなことではなく。新幹線は人と情報を高速で運ぶようになった。又高速自動車道はその上更に物を運ぶ。昭和六十一年十一月に関越自動車道が全線開通し、続いて北陸自動車道も六十三年に上越市・富山県朝日間に開通し、名神高速道と接続し近畿経済圏に結ばれ経済交流は西の方とも密になった。この新潟市の中心に白勢商事（株）さん（社長白勢敬二氏）がおります。昭和二十八年石油販売業をスタートして創業され、翌二十九年機械建材部を設けられ建設機械並びに電機工事業の販売を開始、五十一年には現在地に四階建てのビルを新築し、営業社屋とし、又、六十年には長岡市新産センターに、長岡営業所とテクノポリス給油所を新築するなど、県内一円に亘るガソリンスタンドのネットワーク整備、産業用一般機械器具の販路拡張と積極的経営姿勢で営業基盤を確立されております。

又白勢社長さんは地元の人望も篤く、数々の要職にも就任されております。人間関係の尊重をモットーとされる社長さんの理念は、社員の間まで浸透しており、社業を通しての社会への貢献、社内一致協力し、社業の発展を計られております。新潟市も今年市政百年を迎え、更に一段の発展が望まれます。

白勢商事さん社長のご指導のもと、今後ますますのご発展と皆々様のご健康を心から祈念申し上げます。

新潟課 永山記



白勢商事株式会社

新潟市山本戸八八八一



白勢社長

徳川幕府の直轄地となり、日本海軍の拠点としてにぎわい発展の基礎が整えられた。安政五年の通商条約で、横浜、神戸などとともに五港の一つに指定され、明治元年に開港、同二十二年四月一日に人口約四万四千人で市政を施行し、近代都市への第一歩を踏み出した。戦後は二つの災害（昭和三十年の新潟大火、同三十九年の新潟地震）に見舞われたが、市民の力により復興、日本海側最大の都市となつてゐる。上越新幹線は昭和五十七年十一月に開業した。日本海時代の幕開けを告げる記念すべき日でした。新潟・上野間二時間足らず、新潟が日本海の見える首都圏の一部である

お、多々勉強させられます。又白勢社長さんは地元の人望も篤く、数々の要職にも就任されております。人間関係の尊重をモットーとされる社長さんの理念は、社員の間まで浸透しており、社業を通しての社会への貢献、社内一致協力し、社業の発展を計られております。新潟市も今年市政百年を迎え、更に一段の発展が望まれます。

白勢商事さん社長のご指導のもと、今後ますますのご発展と皆々様のご健康を心から祈念申し上げます。

新潟課 永山記

宇建機工株式会社 西那須野営業所 新社屋を披露



須永所長と新社屋

未来を見つめる宇建グループを象徴する様にひととき輝いて見えます。

展示会では、多数のお客様をお迎えし、日頃の感謝の意を込めて、電機製品が当たる抽選会、食べ放題、飲み放題の各種模擬店、レッスンプログラムによるゴルフ教室、歌謡ショー、更にご来場

第三課 小野記

第三十二回 笠友会総会開催 力強く団結を誓う

我が社の栃木県の代理店である宇建機工さん(森田藤伸社長 本社 河内町白沢一八二五二一白沢工業団地)におかれましては、西那須野営業所が開設十周年目に当たり、かねてより建築中であつた事務所及び整備工場がこのほど完成、これを記念して去る五月二十七日(土)、二十八日(日)の二日間、新社屋の披露と大展示会を開催されました。完成された新社屋は一九〇〇㎡の敷地に鉄筋二階建て三三〇㎡の事務所、鉄骨平屋建三三〇㎡の整備工場からなり、返却された機械は、洗浄、点検、整備、出庫又は在庫へと、クレーンを介して効率良く移動して行きます。事務所は本社社屋と同様の赤と白の宇建カラーに彩られ、

夕刻、宿舎の紅梅亭に到着、



恒例の地蔵供養祭 五月晴れの桜電機で

久しぶりの快晴に恵まれた五月十五日(月)十一時、栃木県足利市の桜電機機では、守り本尊の萬善地蔵菩薩の供養祭が執り行われた。参列者は例年の通り、従業員と協力工場そして家族の方々といった、ごく内輪だけである。



前回は続き各論で参ります。一、記念写真(旅行写真)は自分が入る。

旅行に行きますと、お城や、お寺など、建物や風景ばかり写しているのを良く見かけますが、作品として写すなら大変結構ですが、単に記念写真として写してアルバムに貼るのでしたらフィルムがもったいないです。失礼ですが、それでしたら絵葉書の方がはるかに良く写っています。絵葉書の写真は一番条件の良い時にプロが写しているからです。では、そのプロに写せない写真、それは自分、又はファミリーを入れることです。

二、自然光は自然に写る。確かにストロボ写真はきれいに写りますが、雰囲気が出にくいものです。手前が明るく奥が暗くなります。(作例①ストロボ使用)しかし自然光(その場の照明のみ)で写すと多少色が変りますが、雰囲気描写に優れ、手前、奥ともに同じ様に写ります。(作例②自然光のみ)

三、大建造物前の記念写真。大きい建物、タワー等の前で記念写真を撮る機会は意外と多いものです。広角レンズがなければ無理な感じがしますが、勿論建物の真下ではそう簡単には、ずつと離れて写せばどうでしょう(作例③④⑤)作例③は図Bの状態です。

作例④⑤は人物、男性の立っている位置に注意して下さい。

又、作例④では門の前に立っている男性、女性どちらを写したのか分りませんね。

四、カメラの保管。良くカメラやレンズにカビが発生した話を聞きますが、皆さん方はどの様に保管されていますか。ケースに入れて戸棚の奥にありませんか、完全に除湿した状態で入れたら別ですが、もし湿った状態でビニールケースに入っていたら最悪です。新しいカメラでも数カ月でカビが発生します。一番良い方法は、カメラケースに入れず、風通しの良いカビにホコリが付かない様に上からタオルをかけておいておくのが一番です。そして月に一、二回いたずらをして、空シャッターを切ったり、ストロボを発光させてやって下さい。ストロボのコンデンサー等、使用しないと劣化してしまいます。

一回から五回まで各回初歩的な内容と比較的高度な事を取りまぜました。三笠さんの方々と色々写真の話をしている内、こんな話題、こんな事を書いたらとアドバイスにより、五回まで参りました。写真はサイエンスの分野とアートの分野の二面を有していますし、又、楽しみ方として技術面や機材面、記録性や芸術性と多様に楽しめます。いずれに主眼を置いても良いのです。物事、考えすぎると前進しません。とにかく写真ってやっかいなものと思わず、気楽にどんどん、パチパチ写して下さい。それほど真剣にならなくとも昔と違い写せるのですから。写しているうちに、何だ、こんなものか。写真って楽しいな。又、写真は我家の宝物と思って頂けたら写真人としてうれしく思います。

今回をもって「写真ABC」を終了します。
(日本写真芸術専門学校講師)

